

2013年度(平成25年度) 事業計画

🏠 中期事業方針

当会は、会員や支援者の輪を広げ、繋がりを深めながら、以下の中期事業方針に基づき各種事業を計画・実施し、その具体的な成果を共に分かち合います。

1 「社会の発展及び自立は基礎教育の充実から」という考えに基づき、拡大する格差による貧困に苦しみ、教育施設の未整備なカンボジアやネパール等の開発途上国における学校建設を積極的に進め、『国連ミレニアム開発目標』にある、普遍的初等教育の達成に寄与します。

2 教育支援活動として、音楽・美術・衛生教育等に必要の人材育成に力を入れます。特に、カンボジアの全ての子どもたちが学校で音楽や美術を学び、豊かな情操を育むことができることを目指し、教育課程や教材の整備を積極的に進めます。

3 子どもの健全育成を図る教育支援活動に必要な楽器、教材等の支援物資を積極的に集めます。

4 教育支援活動の一環として、生活と就学が困難で養護が必要な当会の支援及び交流のある海外の子どもや、日本で研修や留学を希望する教員や学生などを支援します。

**中期
事業方針**

5 当会及び協力団体の支援先にボランティアを派遣し「日本人の顔の見える援助」を行い、同時にそれを通じて次世代を担う日本の若者の「地球市民教育」を実践します。

6 他団体やボランティアと情報交換を密にしながら、国内外の災害時には、平時から募集する災害時の初動資金を元に、メンバーの派遣や後方支援などの貢献をします。



7 当会の財産である、共働学習経験や国際協力・多文化理解・共生などの豊富な実践的な専門知識を活かして、『国際ボランティア・カレッジ』を継続運営し、「国際ボランティア市民」としてグローバル社会で生きること志す人々に、国際NGOにふさわしい学びの場を提供します。

8 NGOネットワークに参加し、人権の擁護又は平和の推進、教育の質向上を図る活動や提言を行います。

9 機関紙やホームページ、報告会等を通じて当会の活動を広報すると共に、ボランティアや地域サポーターをはじめ、あらゆる支援者と繋がりを深めながら、JHPが目指す国際協力や教育支援活動の理解者を増やします。

10 各種募金活動、認定NPO法人の積極的な宣伝を行い支援者の拡大を図ります。また、事業の透明性の確保、個人情報保護や危機管理の徹底、事業実施や運営能力の向上に努めることにより対外的な信頼を深め、より安定した運営基盤を築きます。

1-1 学校建設事業(カンボジア)

1 9 ※プロジェクトの背景はP.7参照

目標	●カンボジア政府の教育予算では対処できないが、支援の必要性・緊急性の高い学校を調査し、教育環境の改善に即応する。具体的には、不完全校(定められた学年まで授業を行えない学校)の減少、安全を確保できない老朽校舎の減少、教師の質向上に資する施設建設を目指す。 ●長期にわたって利用可能な丈夫な学校をつくり、維持管理を徹底させることにより、教育環境の整ったモデル校を普及させる。
中期事業計画(2012~14年度)	1)新校舎建設30棟、洪水被害等により必要な校舎修理を実施する。また、300棟目の校舎建設を20周年事業の取り組みとする。 2)国境周辺の遠隔地など、地域を限定した教育環境改善への取り組みに着手する。 3)2011年度までに建設した校舎の状態、活用状況、成果等の調査を行い、必要に応じた指導や継続支援を行う。
事業名	2013年度の活動内容、目標など
小・中学校建設	1)調査に基づき特に遠隔地の優先度の高い小学校、教室数不足の中学校から15棟を建設する。 2)新規建設校に対して、付帯設備、学校備品、学習教材等を必要に応じて支援する。 3)新規校舎や付帯設備の支援に関連づけて、設備の維持管理指導、衛生指導(トイレ利用、校内美化等)を行う。 4)上記3)の衛生指導に必要な教材として、当会作成の「衛生教本」を各校50冊配布する。 5)建設校や候補校の視察、交流、贈呈式参列を希望する支援者をコーディネートする。
教員養成校建設	学生寮や多目的教室棟などの建設ニーズを調査する。
専門家派遣	丈夫で長期間使用可能な施設建設と建設後の維持管理方法の助言を得るために、一級建築士を派遣する。
特定地域支援	教育環境の整備が立ち遅れている特定地域を調査し、支援を実施する。2013年度はプレイベン州コンボントラバイ郡、ピームチョー郡を予定。
全棟調査	1)2011年度までに建設した約280棟の調査を2年計画で行う。主な活動内容は以下の通り。 ①校舎建設の成果確認(生徒数増減、退学率の増減、地域発展などへの影響、住民へのインタビュー) ②校舎状況確認(特に築10年以上の校舎の問題点を今後の改善点として活かす) ③付帯施設、備品の活用状況確認(トイレ、井戸、ソーラーパネル等) 2)調査校に関する情報管理を徹底し、今後のプロジェクトへの活用、支援者への報告を行う。
継続支援	1)全棟調査等で確認したニーズに対して継続支援を行う。その際に、学校予算の活用状況も併せて確認する。 2)既建設校の視察や交流を希望する支援者のコーディネートを行う
衛生教育強化事業	国際ボランティア貯金の助成金を活用し、学校環境の改善強化のためのトイレ・給水施設建設及び、衛生教育強化支援の一環としてワークショップを実施する。

1-2 学校建設事業(ネパール)

1 9 ※プロジェクトの背景はP.9参照

目標	劣悪かつ危険な校舎の建替え、また教室不足解消のための新築により、教育環境の改善を目指す。
中期事業計画(2012~14年度)	1)新校舎建設5棟、バヌー学校の2階部分の増築を行う。 2)ニーズに応じて支援を継続する体制を整える。
事業名	2013年度の活動内容、目標など
学校建設	新規建設校として、シンガデビ学校(4教室)、ラクスマー学校(4教室)の2棟を建設する。
支援体制構築	ニーズに対応する支援者の状況を把握しながら継続体制を検討する。

